

令和5年度

エコパートナー環境学習等業務委託事業

～四日市の海でアサリを育成しよう～

豊かな海の実現を「自分ごと」として考える講座等

運營業務委託

事業報告書

令和6年3月

一般社団法人ネクストステップ研究会

目 次

第1章 事業の概要	2
1. 事業の目的	2
2. 事業の背景	2
3. 事業の特徴	2
4. 事業における推進体制	3
第2章 事業内容	3
1. 講座「四日市の海でアサリを育てよう」	3
2. アサリの育成を通じた環境保全活動	5
3. ネットの生き物調査	5
第3章 事業実施結果	6
1. 参加者数	6
2. 調査結果	7
第4章 本事業の総括	7

添付資料

1. 講座 案内チラシ
2. 講座配布資料
3. 生き物観察シート
4. 9月30日実施記録
5. 10月28日実施記録
6. 11月25日実施記録
7. 2月10日実施記録
8. 3月9日実施記録

1. 事業の目的

さらに、かつて公害の海ととらえられた四日市の海に市民の集う里海として持続的に楽しめる新たな場をつくり、四日市市漁業協同組合との協働で、漁業の活性化や浜に市民が集う地域の活性化のきっかけとすることも副次的な目的とする。

[illegible]

今回試行する方法は、伊勢湾に浮遊するアサリの幼生が設置した置き網に自然に棲み着き育つというもので、伊勢湾に幼生が浮遊している間に取り組むことでアサリの棲む海を取り戻せる可能性がある。

◆副次的な効果が期待できる。

目的でも述べた通り、環境教育の場としてだけでなく、市民が集い、海に親しむ場としても活用し、地域の活性化を図ることができる。アサリの漁獲量が相応にある場合は、漁業に加え観光業（エコツーリズム）やレジャーなど地域産業の広がりが見込める。

4. 事業における推進体制

本事業は、四日市市漁業協同組合の場の提供を受け、環境学習に関しては、四日市自然保護推進委員会に協力を依頼している。

三重県や四日市市の漁業関係部署からは、漁業に関する専門的な助言等を受けることにより、市民に正確な情報を発信することができる。

海岸での活動では危険が伴うため、海の環境に精通した漁協の指導の下、イベントを開催する。

第2章 事業内容

アサリの育成を通して海の環境を考える講座を2回、アサリ育成保全活動を3回行う。

	実施日	内容
1	9/30（土）10：00～12：00	講座1
2	10/28（土）10：00～12：00	講座2
3	11/25（土）10：00～12：00	保護観察会1
4	2/10（土）11：30～13：30	保護観察会2
5	3/9（土）10：30～12：00	保護観察会3

1. 講座「四日市の海でアサリを育てよう」

(1) 講座のねらい

伊勢湾の現状を学び、ケアシエルネットを使ったアサリを育成する取組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

(2) 実施スケジュール

四日市広報9月下旬号に10月の講座について掲載し参加者の募集を行う。
また、講座のチラシ（資料1）を作成し、教育委員会を通して、小学校4年生および塩浜小学校全児童に配布し周知を図る。

実施日	① 令和5年9月30日（土）② 令和5年10月28日（土） 各日10：00～12：00
場所	四日市漁業協同組合、磯津海岸
内容 講師	四日市の漁業の現状と海岸の生き物観察及びアサリの育成方法 四日市市農水振興課職員 伊藤 竜介氏 四日市自然保護推進委員会会長 門脇 寿美氏

	四日市市漁業協同組合長 川村 誠氏ほか漁師 3 名（9/30 のみ） アサリの育成の取り組みについて ケアシェルネットの作成 ネクストステップ研究会 館 あけみ 生き物観察 四日市自然保護推進委員会 青山 貴美子氏
--	---

(3) 内容

①四日市市農水振興課職員の伊藤氏より、四日市の漁業についてお話いただき、四日市の漁業の現状を知る。また、四日市自然保護推進委員会の門脇氏より漁師さんたちに、四日市公害による水質汚染の歴史を経て、かつての四日市の海の環境と現在の環境の変化について伺う。

②ケアシェルネットによるアサリ育成体験

アサリが減少している中、私たちが取り組んでいるケアシェルネットによるアサリ育成について、経緯や活動内容について解説を行い、参加者とともにケアシェルネットの作成と設置を行う。砂利 4 : ケアシェル 1 の比率でネットに入れ、混ぜあわせ、ケアシェルネットを 1 家族 1 袋作製し、埋没防止のネットの上にケアシェルネットを設置する。

ケアシェルとは、原材料は牡蠣殻で、牡蠣殻を粉砕して粉状にしたのち、粒状に固く成形したもの。ネットに入れて海に入れると、ネット内をアサリが育つ弱アルカリ性に保つ。

①ケアシェル 1 Kg : 砂利 4 Kg をネットに入れ、海岸に設置する。

②伊勢湾内のアサリの浮遊幼生がネット内に着底し、天然採苗することができる。

③アサリは、ネットの中で、波に洗われ流出したり、食害にあうことなく安全に生育する。



写真 ケアシェル株式会社 HP より

③生き物観察

5 地点から各 1 袋の既存のケアシェルネットの中の生き物調査を行い、観察シート（資料 3 参照）に記入する。調査は、アサリ、オチバガイなど主に生息を確認している 8 種類の貝を中心に個数を調べるとともに、アサリについては大きさも調べる。

その後、干潟の生き物観察を行う。

2. アサリの育成を通じた環境保全活動

講座内で参加者に、引き続き活動の参加を呼び掛けるとともに、2 月の保護観察会前に、参加者にメールにて案内を送り周知を図る。また、ホームページやフェイスブックを活用し、一般の参加者への広報も行う。

(1)実施スケジュール

実施日	① 令和 5 年 11 月 25 日（土）10：00～11：30 ② 令和 6 年 2 月 10 日（土）11：30～13：00 ③ 令和 6 年 3 月 9 日（土）10：30～12：00
場所	磯津海岸
内容	① アサリの育成に伴うケアシェルネットの管理 ② ネット内の生き物調査 ③ 干潟の生き物観察 指導 ネクストステップ研究会

(2)内容

アサリの育成に適した方法を考えながら、ケアシェルネットの維持管理を行う。

5 地点から各 1 袋の既存のケアシェルネットの中の生き物調査を行い、観察シート（資料 3 参照）に記入する。調査は、アサリ、オチバガイなど主に生息を確認している 8 種類の貝を中心に個数を調べる。

その後、干潟の生き物観察を行う。

3. ネットの生き物調査

(1)調査場所と方法

9 月から 11 月の講座や保護観察会では、下図の③～⑦の地点でネット内のアサリや他の貝類の数などを調査する。また、2 月以降は、今年度設置委した地点②での調査も行う。



(2)調査対象にした貝の種類

アサリを始め、周辺で見られた主な貝 8 種類を調査の対象とした。

アサリ	イソシジミ	オチバガイ	クチバガイ
			
コウロエン カワヒバリガイ	ハマグリ	マガキ	シオフキ
			

第 3 章 事業実施結果

1. 参加者数

講座及び保護観察会への参加者数は、下表のとおりであった。

当初ねらいとしていた講座参加から保護活動へと継続して参加したのは、14組中3組であった。特に冬場の子どもを伴った継続参加は、応募はあったが健康配慮の観点から不参加となるが多かった。

	実施日	内容	参加者数	報告書
1	9/30（土）	講座 1	19 名	資料 4
2	10/28（土）	講座 2	26 名	資料 5
3	11/25（土）	保護観察会 1	6 名	資料 6
4	2/10（土）	保護観察会 2	12 名	資料 7
5	3/9（土）	保護観察会 3	14 名	資料 8

2. 調査結果

対象とした貝類の観察個体数は、表 1 に示す結果となった。9 月の講座では、ネット内のアサリが死んでいることを確認した。この要因としては、子どもたちに観察しやすいようネットの設置場所をより潮位の高い場所（より浅いほう）に移動させたことにより、夏場の高温で多くの稚貝が死んでしまったことが考えられる。

また、その他の貝類については、今年の秋の講座の時にはクチバガイが特に多く観察された。

なお、2 月の観察会では、秋に着底したと思われる 5 mm ほどのアサリが観察できた。さらに、3 月の観察会では、少しではあるが 1 cm ほどの稚貝が観察できアサリが生育できていることは確認できた。

（表 1）ネット内の貝の個数（集計）

貝の種類	9月30日	10月28日	11月25日	2月10日	3月9日
アサリ	8	6	0	6	8
イソシジミ	4	1	14	3	1
オチバガイ	2	8	3	11	8
クチバガイ	123	227	298	218	236
コウロエンカワヒバリガイ	74	149	50	29	24
ハマグリ	0	0	0	0	0
マガキ	5	16	20	8	9
シオフキ	0	0	0	0	0

第 4 章 本事業の総括

今回、1 回目の講座が、市内の多くの小学校の運動会と重なり、参加者が少なかった。2 回目の講座では、定員の 2 倍の応募があり、市民が海の環境に関心があることが分かった。

2 回連続して講座を開催し、講師とともに 1 度目の講座での段取りや内容の見直しを行い、2 回目の講座では、講座の時間配分を考慮し、話す内容のすり合わせを行ったり、ネット作成や観察時の準備の仕方などを改善しブラッシュアップしたプログラムを作ることができた。

四日市自然保護推進委員会の先生方と連携することにより、子どもたちへの話し方や接し方、学習のポイントなども明らかになったので、今後の活動に活かしていきたい。

講座では、四日市公害の歴史を経て、企業や行政、市民が環境改善に取り組むことにより、きれいな海を取り戻したが、漁業ができる豊かな海になっていないことを知ってもらった。

そのうえで、実際に浜にでかけ、生き物を観察したことで、参加した小学生からは、「やはり、アサリが少ないということが分かった」という声が聞かれた。体験を通すことによって、知識が生きたものになることが実感できた。

今回の事業では、講座に引きつづき活動に参加し、継続して学ぶことを狙ったが、寒い季節になり申し込みがあるものの前日に体調不良でキャンセルとなるケースが多かった。子どもたちと活動するためには、春から秋にかけて開催する方が良いのではないかと考えられる。

また、ネット内の生き物や浜辺の生き物の観察を継続的行ったことにより、アサリや他の生き物の生息環境を推測し、ネットの置く位置や管理方法などがわかってきた。海の問題を学ぶことや、環境保護の取り組みを行う上で、モニタリング（継続的な観察）が非常に重要だと考えられるため、市民とともにモニタリングを継続していくことが重要である。

終わりに

今回の事業では、四日市市漁業協同組合、四日市自然保護推進委員会、水産行政部署など水産業に関わる方たちに多大なる支援をいただき、深く感謝をしている。

伊勢湾の水産資源の大規模な復興事業が進行している中、私たちの市民活動が三重県の取り組む伊勢湾全体のきれいで豊かな海づくりの一助となり、海の問題を自分事としてとらえることができる機会として市民が集う場となるよう、今後も試行錯誤をして取り組みを続けて行きたいと考えている。今回の事業で、市民の興味を引く取り組みであることがわかったが、継続して取り組んでいただくことの難しさを感じている。今回の試みを通して見えてきた課題と成果を生かして、今後もこの活動を継続発展させていきたい。



四日市の海で アサリを育てよう

14 海の豊かさを
守ろう



17 パートナースhipで
目標を達成しよう



ケアシエルネットを使ったアサリの育成体験や砂浜の生き物観察
を通して、海の環境や漁業について学び、海に親しみましょう。

日 時

①9月30日(土) ②10月28日(土)
各日10:00~12:00

※①②各日程とも同じ内容です。
雨天実施。荒天の場合翌日に延期

会 場

四日市市漁業協同組合

三重県四日市市大字塩浜字午高2914番地

定員
各日30名

対 象

小学生(保護者同伴)未就学児の同伴はご遠慮ください。

講座内容

- ①講座 10:00~10:45
四日市市の漁業とアサリのお話
- ②体験 10:45~12:00
ケアシエルネットを作ってみよう
ひがたのいきものを見つけよう

講師 四日市自然保護推進委員会
四日市市農水振興課
四日市市漁業協同組合

応募方法

応募フォームまたはEメールで、
①希望の日
②保護者の住所、氏名、電話番号
③参加者全員の名前、年齢、学年
を記載して、ネクストステップ研究会まで



締 切

①9/16 ②10/14(必着)
応募者多数の場合は抽選。
抽選結果はメールにてご案内いたします。

申込先
問合せ



一般社団法人ネクストステップ研究会

TEL 090-1289-9930 (館) E-mail nextstep.yokkaichi@gmail.com

主催 四日市市環境部環境政策課

〒510-8601 四日市市諏訪町1-5 TEL 059-354-8188 FAX 059-354-4412

E-mail kankyouseisaku@city.yokkaichi.mie.jp

協力 四日市市漁業協同組合、サステナブルスタイル

よ っ か い ち し ぎょぎょう
四日市市の漁業について

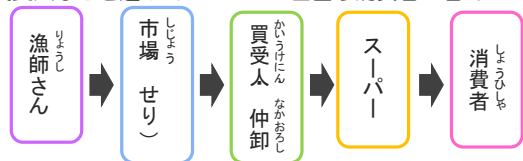
四日市市農水振興課
よっかいちしのうすいしんこうか

ぎょぎょう きよてん ぱしょ
漁業の拠点となる場所



りょうしすう さかな はんばんい ながれ
漁師数、魚の販売の流れ

- ▶ ^{りょうし}漁師さんの人数
 ^{へいせい}平成5年度 ^{ねんど} ^{めい}385名
 ^{れいわ}令和5年度 ^{ねんど} ^{めい}77名
- 
 ^{げんしやう}5分の1に減少
- ▶ ^{りやうし}漁師さんが獲^とった魚は主^{さかな おも}に北^{ほく}勢^{せい}地方^{ちほう}卸売^{おろ}市場^{しやうじしやう}で^{とど}りかけられ、
 ^{かうじやうにん}買受^を人^たなど^{とあ}を^て通^{まわ}してスーパ^{しやうりひしやう}ーヘ出^で回^りり^{しやう}消費^ひ者^{しやう}へ届^{とど}く



とみすはらぎょるいきょうどうはんばいじょ
富洲原魚類共同販売所

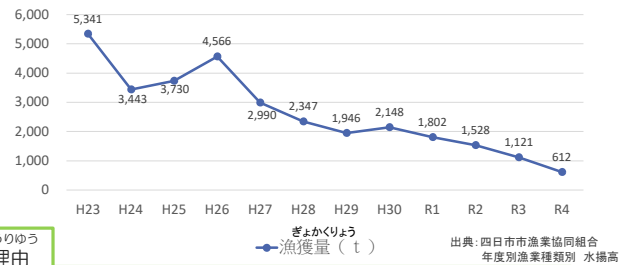
ていきいち かいさい
定期市の開催

日時：毎週木曜日と日曜日
午前 10～11 時ごろ

あした かいさいよてい
明日も開催予定です！



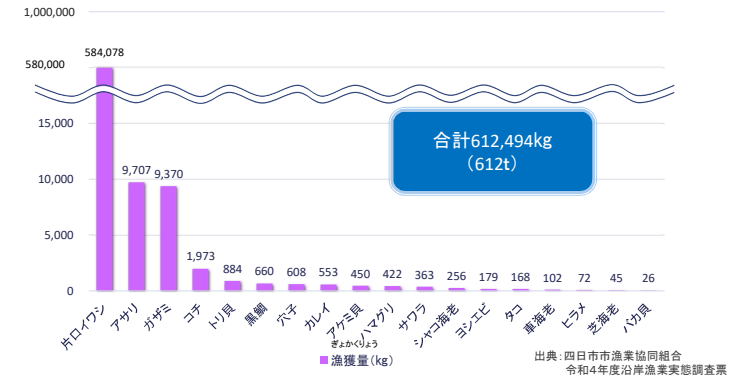
よっかいちし ぎょかくりょう すいし 四日市市の漁獲量の推移



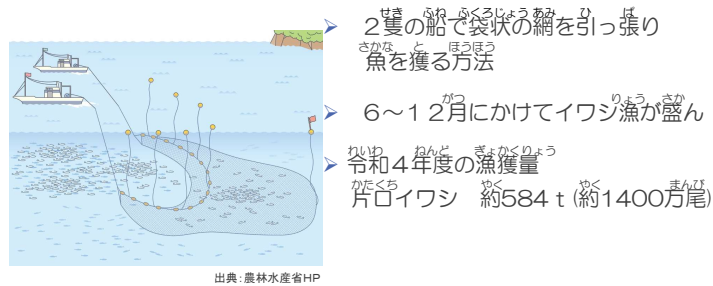
げんしょうりゆう 減少理由

- ・漁師さんの数が減少している
- ・地球温暖化による海水温の上昇や下水道の普及率の向上によってエサとなるプランクトンが減少している

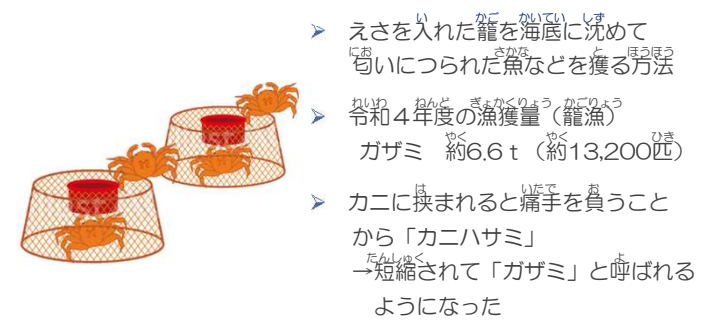
れいわ ねんど と おも ぎょか るい 令和4年度に獲れた主な魚介類



ふな あみ 船びき網



かご りょう 籠漁



ガザミクイズ

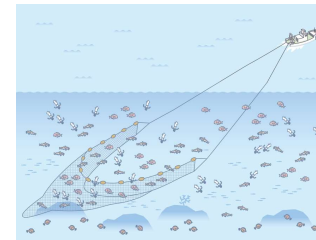
- ガザミはみなさんがよく知っている別名があります。
なんと呼ばれているでしょうか？



ガザミは、
「_____」
という呼び方で
親しまれています。

9

そこあみ 底びき網



出典：農林水産省HP

- 1隻の船で袋状の網を引っ張り
魚を獲る方法
- カレイ、海老、カニ、アサリ、
ハマグリなどが獲れる
- 令和4年度の漁獲量
ガザミ 約1.0 t (約2,000匹)

10

しゅびょうほうりゅう 種苗放流

- 自然界で生まれた魚の赤ちゃんは、他の魚に食べられるなどして
死んでしまうことが多く、大きくなるのはほんの一部
- ある程度の大きさになるまで、いけすなどの安全な場所で育てて
放流する取組を種苗放流という

＜ヒラメについて学ぶ園児たち＞



＜ヒラメを放流する様子＞



11

しゅびょうほうりゅう 種苗放流

＜カレイの赤ちゃん＞



＜ガザミの赤ちゃん＞



＜カレイ放流の様子＞



＜ガザミ放流の様子＞



12

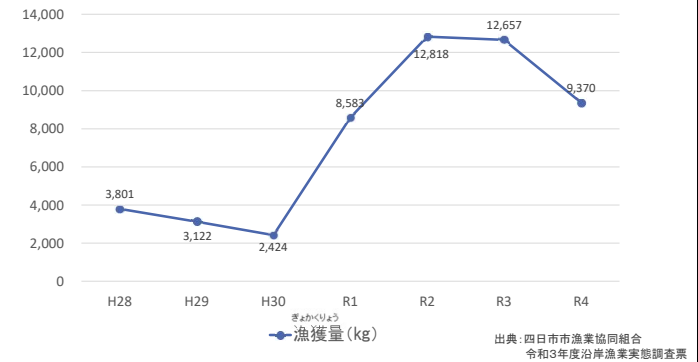
種苗放流（抱卵ガザミ）

- 卵を持ったガザミを獲った際に、販売せずに、産卵しやすい海域に返す取組み
- 返す時には甲羅に日付などを記入し目印をつける
- 産まれたガザミは脱皮を繰り返し、1年で20cmほどに成長する
- 令和4年度は3,348匹の抱卵ガザミを放流



13

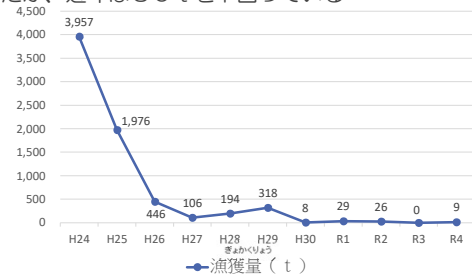
ガザミの漁獲量の推移



14

アサリ漁

- 四日市市では底引き網による漁が行われている
- 最盛期の1960年代後半には年間で15,000t以上の水揚げがあったが、近年は30tを下回っている



15

アサリの漁獲量の減少理由

- 水中の酸素が少なくなっている
 - エサの元となる栄養塩類が減少している
 - 干潟（アサリが生息する砂浜）が、開発による埋立てなどによって減少している（1945年 3,000ha → 2000年 861ha）
- ➡ 三重県が、海岸に砂を運び入れて人工的に砂浜を作る工事を実施した。

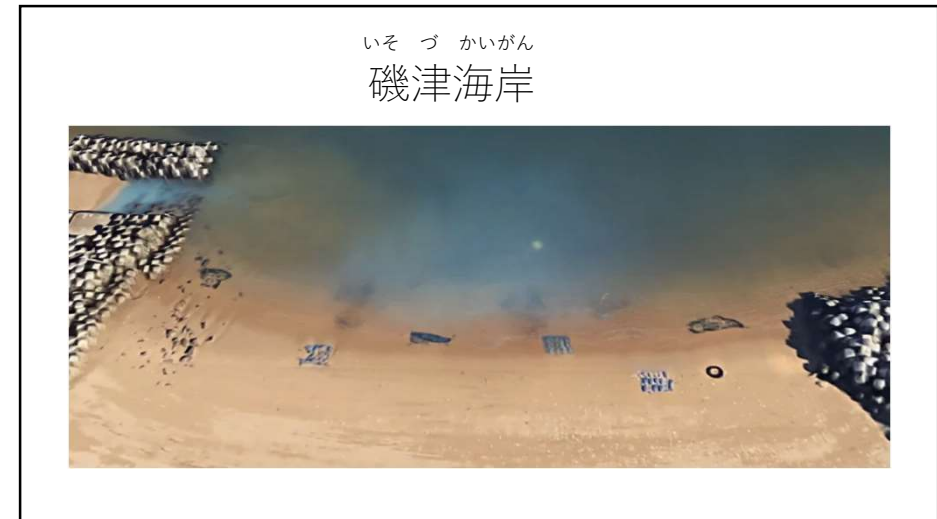


16



せいちょう
ご清聴ありがとうございました



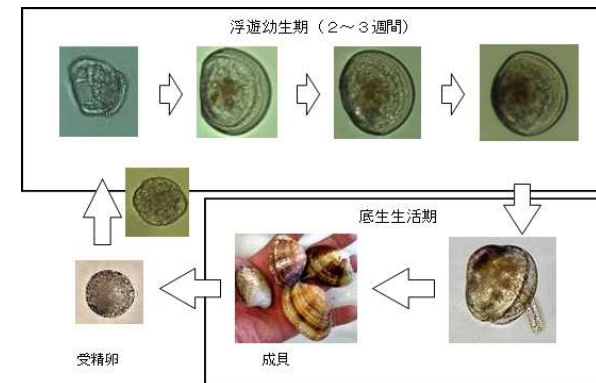


ケアシェルネット

- アサリの稚貝が着底し、ネットの中で育つ
ちがい ちゃくてい
- 他の生物に食べられたり
することなく安全に育つ



アサリの一生



出典
三重県アサリ資源管理マニュアル
～伊勢湾のアサリを守り育て活かす～
改訂版
アサリの生活史 (浮遊生活と底生生活)
幼生写真は日向野純也氏 (養殖研究所)
URL
<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000394430.pdf>

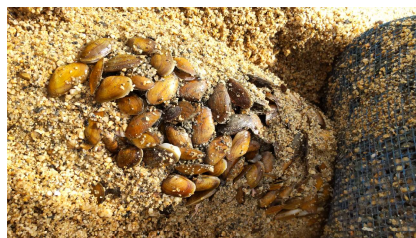


ケアシェルネットを作ってみよう

ケアシェル : ジャリ
1 : 4



ネット周辺の様子



ケアシェルネット周辺の貝 磯津海岸

アサリ



イソシジミ



オチバガイ



コウロエンカワヒバリガイ

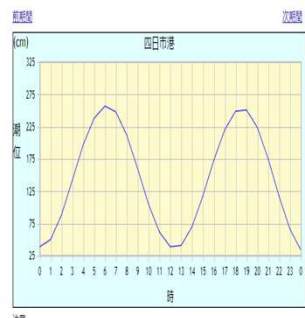


クチバガイ



注意すること

毎時観測グラフ 四日市港
2023年9月30日の観測予測



てぶくろ、くつなどをつける

きけんな生き物に注意する

海に入らない

しおを確認し、かんちょうの時間に来る

かならず大人の人とくる

たいふう たかなみ てんこう わる
台風や高浪など海の天候が悪い日はさける

危険な生き物

アカクラゲ



アカエイ



ケアシェルネットの^{かんさつ}観察と^{ほご}保護

1～2 か月に一度 干潮時
ネットの管理作業と周辺の生きものの観察



一緒にアサリを育てよう

- ネットの管理と生き物観察会



応募フォーム
キャンセルもできます

①
11/25
(土)
10:00～

②
2/10
(土)
11:30～

③
3/9
(土)
10:30～

生き物観察シート

日にち・時間	令和 年 月 日				・開始 :	～終了 :
天気・気温	晴	曇り	雨	気温	度	
浜の状況	じゃりが多い ・ 砂が多い ・ 泥が多い					
土の色・におい	黒い ・ 黒くない			・におう ・ におわない		
潮位	cm		水温		度	
調査した人	小学生 ・ 中学生 ・ 高校生 ・ 大人					

場所(南→北)	1	2	3	4	5	6	7
---------	---	---	---	---	---	---	---

	1cm未満	1cm以上	2cm以上	3cm以上	4cm以上	
アサリの個数						2cm以下のアサリは 捕獲禁止

貝の種類	アサリ	イソシジミ	オチバガイ	クチバガイ
写真				
気づいたこと 個数など				

貝の種類	コウロエン カワヒバリガイ	ハマグリ	マガキ	シオフキ
写真				
気づいたこと 個数など				

そのた気づいたこと

実施日 令和5年9月30日(土) 10:00~12:00 (干潮 12:27 36 cm)

場 所 四日市漁業協同組合および磯津海岸

参加者 19名(市民13名、関係者6名)

講師 四日市市農水振興課職員 伊藤 竜介氏

四日市自然保護推進委員会 門脇 寿美氏、青山貴美子氏

四日市市漁業協同組合長 川村 誠氏ほか漁師4名

(1)ねらい

伊勢湾の現状を学び、ケアシェルネットを使ったアサリを育成する取組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

(2)内容

講義「四日市市の漁業について」

「アサリの育成の取組みについて」

体験「ケアシェルネットの作成」

「生き物観察」

(3)講座の概要

①講座：四日市の漁業について（資料2参照）

四日市市農水振興課職員の伊藤氏より、四日市の漁業についてお話しいただいた。

以前は漁業が盛んで、海苔の養殖やアサリなどが獲れていたが、最近は漁獲量が減少しており漁師さんの数も減ってきているとの現状や、ガザミやカレイなどの種苗放流による水産資源の保護の取組みについて解説いただいた。

四日市自然保護推進委員会の門脇氏より、四日市公害による水質汚染の歴史を経て、漁師さんたちに伊勢湾の環境についてどのような変化を感じているのか伺った。

温暖化による海水温の上昇が起因しているのか、以前はカタクチイワシとマイワシがとれていたが、最近はカタボシイワシがとれるようになったとのことだった。



②ケアシエルネットによるアサリ育成体験

アサリが減少している中、私たちが取り組んでいるケアシエルネットによるアサリ育成について、経緯や活動内容について解説を行った。

その後、参加者とともにケアシエルネットの作成と設置を行った。砂利4：ケアシエル1の比率でネットに入れ、混ぜあわせ、ケアシエルネットを1家族1袋作成し、埋没防止のネットの上にケアシエルネットを設置した。



③生き物観察

昨年度当会で設置したケアシエルネットの中の生き物調査を行った。(資料3参照)

アサリが入っているのが確認できたが、夏の気温や台風によって死滅しており残念だった。他にクチバガイ、オチバガイなどの生息が確認できた。

写真：ネット内の生き物調査



その後、砂浜を掘ったりして生き物観察を行った。
イソシジミガイやコウロエンカワヒバリガイなどを採集した。
写真：干潟の生き物観察



実施日 令和5年10月28日(土) 10:00~12:00 (干潮 11:26 53cm)

場 所 四日市漁業協同組合および磯津海岸

参加者 26名(市民24名、関係者2名)

講師 四日市市農水振興課職員 伊藤 竜介氏

四日市自然保護推進委員会 門脇 寿美氏、青山貴美子氏

(1)ねらい

伊勢湾の現状を学び、ケアシエルネットを使ったアサリを育成する取り組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

(2)内容

講義「四日市市の漁業について」

「アサリの育成の取り組みについて」

体験「ケアシエルネットの作成」

「生き物観察」

(3)講座の概要

①講座：四日市の漁業について（資料2参照）

四日市市農水振興課職員の伊東氏より、四日市の漁業についてお話しいただいた。

以前は漁業が盛んで、海苔の養殖やアサリなどが獲れていたが、最近は漁獲量が減少しており漁師さんの数も減ってきているとの現状や、ガザミやカレイなどの種苗放流による水産資源の保護の取り組みについて解説いただいた。

自然保護推進委員会の門脇氏より、四日市公害による水質汚染の歴史を経て、伊勢湾の環境についての変化と漁師さんの漁の仕方についてお話いただいた。

②ケアシエルネットによるアサリ育成体験

アサリが減少している中、私たちが取り組んでいるケアシエルネットによるアサリ育成について、経緯や活動内容について解説を行った。



その後、参加者とともにケアシエルネットの作成と設置を行った。砂利4：ケアシエル1の比率でネットに入れ、混ぜあわせ、ケアシエルネットを1家族1袋作成し、埋没防止のネットの上にケアシエルネットを設置した。



③生き物観察

9月の講座に調査したケアシエルネットの中の生き物調査を行った。(資料3参照)
5班に分かれ、前回確認したネット5袋について調査し、観察シートに記入した。
アサリは少なかったが、クチバガイ、オチバガイなどの生息が確認できた。



その後、砂浜を掘ったりして生き物観察を行った。マガキやオチバガイのほかゴカイなどのバントスが観察でき、冊子「よっかいちの自然」のコピーを見て、参加者と一緒に調べたりした。

参加者に聞いたところ、お話の中でアサリが少ないとのことだったが、実際に干潟で探しても見つからなかったのが、少なくなったことが実感できた。海の生き物探しは楽しかったと

のことだった。



実施日 令和5年11月25日(土) 10:00~11:30 (干潮 10:20 76 cm)

場 所 磯津海岸

参加者 6名(市民5名、関係者1名)

(1)ねらい

ケアシエルネットを使ったアサリを育成する取組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

(2)内容

①ケアシエルネットによるアサリ育成体験

参加者とともに散乱しているケアシエルネットの管理作業を行った。

前回のネット内の生き物調査でクチバガイが多く観察できたことで、ネットの設置場所がアサリの生息する環境に適さないと考えられた。ネットの位置を海側の低い位置に移動させることにした。

子どもたちには、はさみを使ってロープを切るなど手伝ってもらった。



②ネット内の生き物調査

5か所のケアシエルネットの中の生き物調査を行った。(資料3参照)

1か月前とあまり変化が見られず、クチバガイが多かった。



③干潟の生き物観察

その後、砂浜を掘ったりして生き物観察を行った。子どもたちは、アサリがなかなか見つからないことも、「宝探しのようで楽しい」、「アサリを見つけたときはうれしかった」と生き物観察を楽しんでいた。今度は食べられる貝（2センチ以上）を見つけて持って帰りたいとのことで、なぜアサリがいなくなったのか興味があるようだった。

マガキやイソシジミやアサリなどのほか、これまでに見たことがないヒメシラトリという貝が確認できた。



実施日 令和 6 年 2 月 10 日（土） 11：30～13：00（干潮 12：30 60 cm）

場 所 磯津海岸

参加者 12 名（市民 11 名、関係者 1 名）

（1）ねらい

ケアシエルネットを使ったアサリを育成する取組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

（2）内容

①活動の解説

講座の参加者以外に、昨年参加してくれた高校生のほか、初めて参加の方がみえたので、簡単に活動の趣旨を説明した。



②ケアシエルネットによるアサリ育成体験

参加者とともにケアシエルネットの管理作業を行った。

前回から 2 か月たったが、ネットはあまり動いておらず、程よく砂が覆っており、アサリの育成に適した環境と思われる。

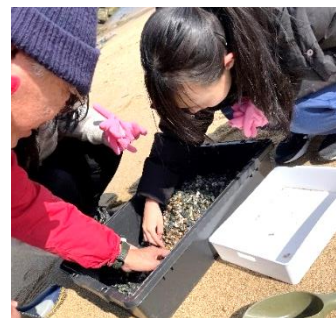


これから春にむけて昼間の干潮の潮位が低くなっていくため、参加者とともにできるだけネットの位置を海側の低い位置に移動させた。

③ネット内の生き物調査

9 月 10 月に設置したネットを加え、6 か所のケアシエルネットの中の生き物調査を行った。（資料 3 参照）秋の産卵で着床した小さなアサリの稚貝を確認することが出来た。

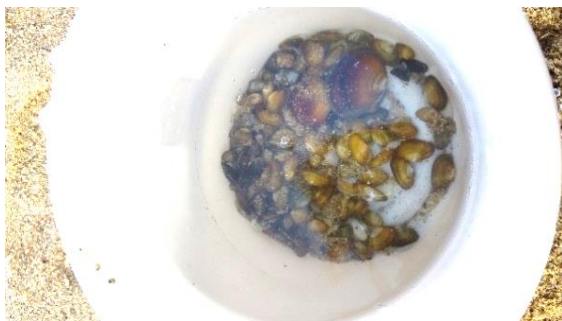
オチバガイとクチバガイの見分け方やケアシエルの役割など、参加者が関心をもって先生に尋ねていた。



④干潟の生き物観察

その後、砂浜を掘ったりして生き物観察を行い、コウロエンカワヒバリガイが多くいる場所を見てもらったりした。干潟での生き物探しは楽しいとのことだった。

また、みんなで採集した生き物の共有を行った。マガキやオチバガイ、イソシジミやアサリなどが確認できた。



実施日 令和 6 年 3 月 9 日（土）10：30～12：00（干潮 11：40 50 cm）

場 所 磯津海岸

参加者 14 名（市民 11 名、関係者 3 名）

（1）ねらい

ケアシエルネットを使ったアサリを育成する取組みを通して、海の現状を実感し、興味関心を持っていただく機会とする。

（2）内容

①活動の解説

10 月の講座参加者 3 組、11 月から継続して参加している 1 組のほか、初めて参加の方がみえたので、簡単に活動の趣旨を説明した。



②ケアシエルネットによるアサリ育成体験

ネットの設置方法や管理の意義などを説明し、参加者とともにケアシエルネットの管理作業を行った。前回海側にネットを移動させたからか、散乱しているネットが見受けられ参加者とともにネットを並べなおした。これまでの活動から導き出した設置する位置の高さと生き物の種類について説明し、さらに海側にネットを移動させた。



③ネット内の生き物調査

6か所のケアシエルネットの中の生き物調査を行った。(資料3参照)

参加した子どもに水温、気温の測定をしてもらうなど、できることを体験してもらった。

9月の観察会には、生息していたアサリを夏の暑さ等で死滅させてしまったが、2月の観察会には、小さめのアサリを確認することが出来た。今回は1cmほどのアサリの稚貝を数個確認することができたことで、アサリの成長を確認する機会となった。



④干潟の生き物観察

砂浜を掘ったりして生き物観察を行った。

オチバガイやイソシジミやアサリなどの二枚貝のほか、カレイの稚魚などが確認できた。

